
占い

大澤豊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

占い

【Nコード】

N9652X

【作者名】

大澤豊

【あらすじ】

下北沢のあのバーのあの場所。そこにいる痩せたガイコツのような男の人。

占いが出来る、と少し有名でした。

「私の願い、叶いますか」

女は聞く。男は飄々と答える。

「さあ？」

「さあ、つて。占い得意なんですよね」

女は声を荒げ、苦笑する。「このあいだ、私の友達を占っていたじゃないですか」

男は痩せた白い顔で女を見上げた。

「彼女の未来に危険を予知したから忠告したまでです」

「ほら、未来、予知できるんじゃないですか。だったら、」

「未来は変わります」

「今のところは、どうなんですか」

女はイライラと腰に手を当てた。男は目を細め、笑う。

「叶いません、っていったら、どうするんですか」

「えっ」

「叶いますっていったら？」

「あの？」

「あなたは、今それを知ってどうするんですか」

女は言い返せず、仕方なく男を見つめた。

男も無言で女を見つめ返す。

しばしの沈黙。

「あなたの夢は叶いますよ」

と、男が不意に真顔で言った。

女は目を見開いたが、男は続ける。「今のところは」

「私が今伝えた事で、少なからず未来に変化は生じます」

「それ、先に言ってください」女は鼻を膨らませた。「せっかく叶うってわかったのに」

「だから、一つ言っておきますけど」

男はまた目を細めた。「未来は変わるんですよ」

「あなたの夢は、俺の一言で簡単に崩れてしまうようなものなんですか」

男はそう言つと女を指差した。

「あなたの未来はあなたが決めるんですよ」

数年後、女は作家になった。

そして一つの短編を書いた。

占いが得意な、不思議な男の話である。

ファンタジーばかり書いていた女には珍しい、ノンフィクションであつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9652x/>

占い

2011年10月27日10時06分発行